

子どもの本や、子どもの読書活動の県内外の情報をお届けします！

山梨県子ども読書支援センター(県立図書館内) TEL 055-255-1040 <http://www.lib.yamanashi.jp/>

★県内ニュース めいぐるみのお泊まり会&おはなし会 北杜市すたま森の図書館

めいぐるみのお泊まり会とは「子ども達のお気に入りのめいぐるみが夜の図書館に宿泊し館内を探検する」という疑似体験を通して子ども達に図書館や絵本に親んでもらう取り組み。海外から導入され全国各地で行われている人気イベントです。昨年度からこどもの読書週間に実施している北杜市の取り組みを紹介します。



第1部 めいぐるみと一緒にのおはなし会

2014年5月11日(日)北杜市内の親子(対象は園児から小学校1年生)16組が大好きなめいぐるみを持って図書館にやってきました。

最初にめいぐるみと一緒におはなし会に参加します。内容は図書館職員とボランティアによる読み聞かせやパネルシアター、劇など。北杜市の新図書館キャラクターブックマンも登場し、導入や読み聞かせで活躍し盛り上がりました(写真)。

おはなし会プログラム

- 1 ブックマン B Mによる読み聞かせ『オムライス・ヘイ!』
(武田美穂作、ほるぷ出版、2012年)
- 2 北杜市図書館の歌
- 3 大型絵本『おかしなかくれんぼ』
(山脇恭作、末崎茂樹絵、チャイルド本社、2008年)
- 4 ペープサート「ぼうけん!はらぺこじま」
(上野与志作、二本柳泉絵、チャイルド本社、1993年)
- 5 パネルシアター「ぱんぱんぱんつ」
(高木さんご作・絵、ひさかたチャイルド、2008年)
- 6 劇「しちどぎつね」

第2部 めいぐるみのお泊まり会

おはなし会終了後、めいぐるみだけ図書館に2泊します。子ども達めいぐるみをベッドに寝かせ「バイバイ!」とお別れして家へ帰ります。中には泣き出す子も。

お泊り会でめいぐるみ達は何をしたのでしょうか?図書館が開館すると、めいぐるみ達は夜の図書館探検に出かけ、普段は見ることができない閉架書庫の中やブックポストの中にも入りました。また、本の貸出やおはなし会を体験しました。持ち主の子どものために本を1冊選び、メッセージカードも書きました。「〇〇ちゃんへ としょかんへおとまりさせてくれてありがとう。とってもたのしかったよ。△△がえらんだのは『まます すきです すてきです』だよ。〇〇ちゃんとこんなしりとりしてみたいな!」

2日後、子ども達がめいぐるみを迎えにやってきました。夜の探検の様子を写した写真と、めいぐるみが選んだお薦めの本、メッセージカードを手渡します。(写真)子ども達は写真を見て「これどこかな?」と図書館の中を探していました。

〇● めいぐるみのお泊まり会を実施する目的は? 〇●

北杜市の子どもの読書活動推進計画に基づき、この事業を通して子ども達の想像力を養い、感受性、創造性豊かな子どもを育てることを目的としています。子どもにとってめいぐるみとの2泊3日の別れは離れがたく泣く子どももいましたが、めいぐるみが夜の図書館を冒険している姿を想像する心は子どもにとって大きな成長であり、また親子の会話のきっかけにもなりました。保護者からは「夢があって楽しい」「毎年やってほしい」といった感想がありました。

〇● 「めいぐるみが選んだお薦めの本」はどのように決めるのですか? 〇●

昨年度はめいぐるみのキャラクターに合わせた本を選び、次に持ち主の子どもの年齢と本の内容を組み合わせましたか難しかったです。そこで、今年度は名作と言われる長年読み継がれた絵本を中心に年齢も考慮し選書し、興味を持つようにその本についてコメントしたメッセージカードを付けました。その結果、選書の幅が広がり埋もれていた良書を手渡すことができました。

〇● 実施の際に参考にした情報は? 〇●

豊中市立図書館や宝塚市立西図書館ホームページ、カーリル「ブログ」、国立国会図書館「カレント・アウェアネス・ポータル」に掲載されためいぐるみのお泊まり会についての紹介記事です。

●○ 事例紹介 ○● 小学校3・4年生の読書クラブ「カムカムクラブ」 甲州市勝沼図書館

甲州市勝沼図書館では会員制読書クラブ「カムカムクラブ」を行っています。募集直後に定員に達するという人気のクラブ、どんな活動をしているのでしょうか？また、なぜ小学校3・4年生を対象にしているのでしょうか？活動内容やその工夫について紹介します。

○● カムカムクラブとは？ ○●

県内唯一の子ども向けの読書クラブ。「個人の成長を助ける楽しい読書教育」「自分の住む地域を知る」「図書館の使い方を学ぶ」ことを目的に勝沼町図書館が2003年4月に開始し、現在12年目。小学校3・4年生を対象とし、4月～翌年3月までの1年間会員（小学校4年生進級時に継続可能）として、12～13回、主に土曜日の午後2時間活動します。今年度の会員は24名、内訳は男5名、女19名、小学校3年13名、小学校4年11名です。

○● どんな活動をしているのですか？ 人気の活動は？ ○●

主な活動は読書へのアニメーション、カムカムフェスタ（図書館祭り）に展示・ペープサート・クイズ大会のスタッフとして参加、甲州市の4つの図書館めぐり、図書館探検隊、カムカムクッキング、地域を知るフットパス市内探検、ALT（外国語指導助手）の先生と英語の絵本を楽しむなどです。子どもに人気の活動は、本に登場したお菓子を作るカムカムクッキングと図書館司書の仕事を体験できる図書館探検隊です。

○● なぜ小学校3・4年生を対象にするのでしょうか？ 会員制の理由は？ ○●

読書離れが始まると言われ、読み聞かせを聞いて楽しむ低学年から自分で本を選び読み始める大切な時期でもある3・4年生をしっかりサポートするためです。会員制とする理由は読書へのアニメーションに必要な「事前に同じ本を読んでもらう」「読書能力や人数を考慮して作戦を考える」「継続的に行う」ことを可能にするためです。

○● 工夫していることはありますか？ ○●

市内探検に行った場所で読み聞かせをするなど、すべての活動に本を関連づけています。また、クラブの子どもの読書能力にあった本を幅広いジャンルから選び、自分で本を選ぶ機会（推薦図書ポップを作成し展示）を設けています。読書へのアニメーションで使うための本は10～20冊同じ本を購入したり（『あらしのよるに』『エルマーのぼうけん』など21タイトルを所蔵）、他の図書館から借り用意します。アニメーションについて職員が学べるよう、学校巡回アニメーション（小学校1・2年に年2回実施）で毎回異なる職員が補助者となり記録を取っています。

○● 参加した子どもの読書活動に何か変化は？ ○●

最初は恥ずかしがっていた子が様々な活動を体験するとアニメーションの場に慣れ、積極的に発言するようになってきます。発言に自信を持てるようになると、本を読む姿勢も積極的になります。昨年度の保護者アンケートには「読む量が増え、読むペースも速くなった」「本が好きになった」「家庭で本について話をするが増えた」「長い読み物を読む機会が持てた」「シリーズや同じ作者の本などの軸を通し本選びの幅が広がった」「本を中心に友達の輪が作れている」「自分で物語を考えて書くようになってきた」「他の学年でもやってほしい」などの記述がありました。

▼ 2014年11月16日（日）の市内探検に参加しました ▼



○● 大善寺を見学 ○●

藤切り祭で有名な大善寺を見学。寺の歴史について檜皮葺きの本堂の中で説明を聞きました。1200年前に寺ができ、本堂は国宝で関東最古の木造建築であること、本尊の薬師如来像が手にブドウを持っており、武田氏が厨子を寄進したことなどについて学びました。



○● 『ぶす』の読み聞かせ ○●

大善寺の楽堂で読み聞かせ。狂言えほん『ぶす』（内田麟太郎文、長谷川義史絵、ポプラ社、2007年）です。「あおぐそ、あおぐそ」「あおげ あおげ」。壺の中の水あめを毒と思ひ込む太郎冠者と次郎冠者の真剣なかけあいを子ども達は夢中になって聞いていました。



○● 勝沼フットパスを歩く ○●

黄金色に染まる秋景色の中、大善寺→太郎橋→旧祝橋→勝沼図書館までの勝沼フットパスを歩きました。ブドウ畑の間をめぐるコースで、室伏徹さん（甲州市勝沼中央公民館）によるガイドつきです。初代から四代までの祝橋の歴史や日川から取水した水の流れ、利右衛門稲荷に伝わる狐女房の伝説など地域の歴史をたっぷり学びました。